

かけはし

44 期生 No.18
2022 年 9 月 5 日 (月)

唯一の地上戦、沖縄戦について学びました

先週の火曜日、平和学習をしました。まず、沖縄戦中に起こってしまった集団自決についての話を実際に体験した人の話とともにビデオで見ました。思わず目をそらしたくなったり耳をふさぎたくなったりするような話でしたが、みんな目をそらさず、集中して画面を見つめていました。その後は沖縄戦を歌った島唄を聴き、そこに込められた思いを学びました。何も知らずに聴くと沖縄らしい明るさを感じる歌ですが、歌詞に隠された本当の意味を知った後に聞くと、その明るささえも涙を誘う歌に感じられましたね。そして最後に、『沖縄全戦没者追悼式』で小学 2 年生が発表した『こわいをして、へいわがわかった』を聞きました。この平和学習を通し、みんなが感じたことを紹介します。もう一度、平和学習で学んだことを思い出しながら読んでください。



今回の戦争についての話は、沖縄についてだったので思うことが少し違った。戦争で亡くなった人たちは、敵に殺されただけだと思っていたけど、集団自決という一緒に避難していた味方たちで殺しあっていたということは初めて知った。今の時代は誰も死にたくないと思っているが、戦争の時代は「殺してほしい」「自分もはやく死にたい」「うらやましい」ということを思うなんて、どれだけ残酷な経験をしてきたか、どれだけ悲しい思いをしてきたか思い知らされてとても苦しくなった。最近私たちは昼食に給食が始まって、私もみんなも「おいしくない」「お弁当がいい」とずっと言っているけれど、これはわがままで、戦争時代の子どもたちは、戦争に協力させられてご飯もカエルやカタツムリ、もしくは何も食べるものがなくて栄養失調で亡くなっている子どもたちがたくさんいたのに、今の私たちはぜいたくを言っているのはよくないと思った。私たちが今すべきことは、平和に感謝し、平和であり続けるために戦争を絶対にしてはいけないということを一生伝えていくことだと思った。

何もしていない人たちまで殺されてしまうのがすごくかわいそうだった。幸せに包まれていた人たちの幸せも戦争によってすべて失われてしまっていて、家族を失った人もいた。今でもそのような戦争がどこかで行われていてたくさんの命がなくなっていくのを見て、戦争はなんのために命を奪っているのかわからないけど何もしていない人の命を奪うのをやめてほしいなと思った。

沖縄戦について今回勉強して、今まで戦争というのは空襲などで亡くなっているのかと思っていたけど、実際は自決や日本軍に殺されたりして亡くなっていると知り怖かったしびっくりしました。でも今日本が平和に過ごせているのは、自分のご先祖様が残してくれたものや、私たちのためにぽっかりとあいた何をしていてもふさぐことはできない傷を伝えてくれたおかげだから、毎日感謝しながら生きていこうと改めて思いました。自分はそれを実際に体験していないから「怖いな」で終わってしまうけど、実際は私たちが思っている何倍も恐ろしいものだし、「怖いな」「悲しいな」だけでは済ますことができないことなんだと思いました。

私は、この 2 時間で、戦争のつらさ、悲惨さを改めて知った。戦争はたった 2 時間で伝えられることじゃないけど、それでも知ることができた。戦争というものに立ち会った人々は、今話を聞いた私たちよりも何倍苦しかっただろうと考えると、胸が苦しくなった。戦争がない世の中はどんなものなのだろうか？今はウクライナの戦争があったり、それ以前にイランやシリア、アフガニスタンなどの戦争は絶えない。加えて冷戦などもある。私たちは何ができるんだろう。戦争を知ることだと思った。戦争を経験したことがないからこそ、まずは戦争を知り、悲惨さなどを感じて後世に伝えることができたらいんじゃないかと思った。島唄という曲は、島の人々の感情が描かれていて、すごく想像することができた。最後に「永遠に平和を祈る」とあるが、本当に達成できたら、戦争で亡くなった方々も嬉しいんじゃないかと思う。

私は、いろんなことを感じました。身近にいた、家族、親せき、友だちが戦争に闘いに行くことがあるんだ、と思いました。「いや」とか「行きたくない」ということも、本人がどれだけ怖くても、行きたくなくてもそう言うことは許されないし、家族だって、行ってしまう「子ども」や「お父さん」に「行ってらっしゃい。気をつけて」ということしかできない。そんなつらさもあることを知りました。もし、自分のお兄ちゃんやお父さんが、何があるかわからない戦場に行ってしまうことを考えたら心配で、不安で涙が出そうになりました。この戦争の怖さや、戦争をしてはいけないということを、まだ戦争のことを知らない人に自分たちが伝えていけたらな、と思いました。

言葉だけでは何度も聞いたことのあった「沖縄戦」だが、映像や音声で聴くと実際に集団自決を目の当たりにした人たちは、そのことを思い出したり口にしただけで苦しんでおり、亡くなった人はもちろん、生き残った人たちが負った心の傷も言葉にできないほど深いということを感じた。また、普段音楽の授業などで何気なく歌ってきた島唄だが、その歌詞の中に戦死した人や生存した人の思いがかかれていることに衝撃を受けた。無意味だと思っていても世界各地で起きてしまう戦争。日本で二度と繰り返さないためにも後の世代に伝えていくことが大事だと思った。

戦争のときに生きていた人から教えてもらったことを、次生まれてくる人に伝えていくことが大事だと思いました。理由は、戦争のときに生きていた人たちが話したくないけど頑張って話してくれた悲しいことやしていたことを聞いただけで心の中に置いておくだけで、その話を知っている人が死んだときに次に生まれてくる人に伝える人がいなくなるからです。戦争といわれると広島や長崎の原爆のことが悲しいことだと思っていたが、沖縄でもこんなにも悲しい出来事があったんだと思いました。

今と戦時中では、人々の暮らしや生活・教育さまざまなことに違いがあるんだなと思いました。平和学習で見た映像を通して戦時中の人々に平和は一つもないなと思いました。自分たちと同じ年齢ぐらいの子どもが強制的に戦わされて、尊い命を捨てるというとても悲惨なことが当時では日常になっていて、表現することができないほど苦しかったんだなと思いました。今では考えられない家族同士の殺し合い、どんな思いをしながら命を落としたのだろうと思いました。今、自分は戦争について無関心だったし、自分は関係ないと思っていたけど、昔、戦ってくれた人々の命があって、今平和に暮らしていくことができるんだなと思いました。日本では戦争は起こっていないけど、世界中の国々との戦争をやめていかないと平和にならないなと思いました。これからは自分たちが戦争についてもう一度考え、平和の大切さを一人一人が受け止め、しっかり学んでいくことが、今、私たちにできることだと思いました。

私は、今回の授業を受けて改めて平和は当たり前ではないんだ、ということを実感しました。今、自分が平和に過ごしていてもいつそれが壊れるのかわからないんだな、と思い、それを壊さないためには私が今日知ったこと（戦争は怖いんだ、平和は日常的ではないんだということ）を伝えていくことが大切なんだと思いました。食べ物がないと苦しいことも安心することがなく毎日不安で過ごしたこともないけれど、実際の話を聞いてこの平和を守っていきたくし、それをあらためて教えてくれた人たちの死をムダにしたくないと思ったので、私にできること（戦争についてを頭に入れてそれを伝えていくこと）をしたいと思います。できることは少ないけれど、私は今回多くのことを学びました。なので、次は私が学びを与えられる側になりたいなと思います。そして、今の平和を大切にしたいです。

本当に戦争を体験した人のお話を聞いて、戦争は絶対にしてはいけないことだと思いました。争いに今の私たちより小さい子もつれていかされていたと知って、今日まで毎日、学校まで歩いてきて、友だちと遊べていることが本当に幸せなことなんだなと感じました。戦争時はまともに食べ物も食べられなくて、カエルやカタツムリなどをなんとか食べていたのに、自分が今、好き嫌いを言っていたことが申し訳なくなりました。これから、戦争のない世界にするために、今ある生活に感謝することしかできないけれど、みんなが戦争の怖さを知って今の生活が幸せなことだと知れば、争いはなくなるんじゃないかと思いました。

今回の『沖縄戦について』のみんなの感想を読んで、自分が中学生の時に『平和学習』という名前なのに、なぜその『平和』と対極にある『戦争』について学ぶのか、と疑問に思ったことを思い出しました。そのときはふとそう思っただけだったので、答えにたどりつくこともなく、私はそのまま大人になりました。でも、小学２年生の女の子が発表した『こわいをして、へいわがわかった』を聞いたり、みんなが書いた感想を読んだりして、『平和』の対極にある『戦争』を知ることで、今ある『平和』のありがたみがわかったり、その『平和』を守るために、もう二度と『戦争』を繰り返してはならない、ということを強く思ったりすることができるんだな、と感じました。

戦争をするより平和であった方がいい。誰が考えてもそう思うのに、世界に目を向ければ、今でもロシアとウクライナは戦争をしているし、内戦や紛争が続いている地域があります。今が平和だからこれからもずっとそれが続いていくのか。それはわかりません。１０年後２０年後のみんな、さらにみんなの次の世代の子どもたち…今は未来へとつながっています。今回、沖縄戦の話を聞いて「やっぱり戦争はしてはいけない！！」とみんなが思ったと思います。どうか、その気持ちを忘れないでください。そして、戦争を経験した人々がいなくなってしまった後の日本に生まれてくる子どもたちに、その気持ちを伝えてください。それが、平和な未来を守るために今からみんなができることです。今回の機会を大切に、これからも戦争に関することを積極的に知ろうとしてほしいと思います。